

学校と警察との 連携について



愛知県岡崎警察署長

西山 敏和 氏

教育随想

岡崎の教育

月報



平成16年7月1日

7月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
愛知県岡崎警察署長 西山 敏和氏	
この人に聞く	2
岡崎市障害者福祉団体連合会会長 加賀 時男氏	
羅針盤	2
学習情報指導員	杉浦 修
ふれあい	3
六ツ美西部小	竹内 和美
知立市立八ツ田小	石原 真吾
特集	4
木村資生博士に続け！ 理科自由研究と木村資生科学賞	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
幼稚園開園（明治33年）	
この本を	8

警察が行っている少年の健全育成活動では、学校をはじめ家庭裁判所、児童相談所、その他少年の健全育成に関する業務を行う機関やボランティアとの連携が必要不可欠であるが、そのうち最も連携を密にしていかなければならないのが学校である。

学校と警察との連携活動（以下、「学警連活動」という）の必要性が叫ばれ始めたのは昭和三十八年ころのことであり、そのころから少年の非行防止のため、常時、学校と連絡を保ち、早期補導の態勢を強化するということが重要視されてきた。

さらに、最近の学警連活動は、少年非行の防止に関することはもちろんであるが、学校内への不審者侵入時の対応、登下校時における児童・生徒の安全確保なども加わり、今ま

以上に学校との連携が重要となつてきている。

そのうち、学校内への不審者侵入事件の対応に関してのポイントを挙げると、①不審者を早く発見する

②不審者情報を多くの先生、児童・生徒に知らせ、安全に避難する ③早く警察に連絡することである。

次に、児童・生徒の登下校時の安全に関しては、①校区内で発生した事案を把握する ②児童・生徒に繰り返し必要な情報を与える ③警察やボランティアと連携し、事案の未

然防止を図ることなどが挙げられる。

最近では、このほかにも、児童虐待

の防止、問題を抱えた少年の立ち直りを図るための支援など、新たな問題も起きている。

少年非行問題をはじめ、これらの問題を解決する上で重要なことは、すべての関係者が情報を共有して問題に当たること、すなわち学校と警察はもとより、地域住民をも巻き込んだ「三位一体」の活動を展開することであると考えている。

（にしやま としかず）



この人に聞く

ふるさとシリーズ



心のバリアフリーを求めて

岡崎市障害者福祉団体連合会会長
加賀 時男 氏

岡崎市障害者福祉団体連合会は、身体障害者福祉協会をはじめ五つの団体で構成されている。加賀さんは、その会長を平成八年から務めていらつしやる。

会長としての仕事は、ご自身の勤めを終えた六時過ぎから、遅いときは夜の九時ごろまで続く。毎日の忙しい生活の中で、会長という重責を果たし続けられる理由を伺うと、

「自分自身が世話好きなのかな。自分のことならやれないけれど、人のためならやれる。会のためになる

ことならやれる。」と力強く話された。

ご自身も五歳のころのけががもとで、足に障害が残り、障害のある一人として長く世の中を見つめてこられた。そして、昔と今の世間の見目の変化を次のように語られた。

「昔は『かわいそう』というように哀れに見られていた。今は一人の人間として甘えが利かないようになってきた。だから、自分でやれることは自分でやらなければいけない。心の中まで障害者になってはいけない。自分がバリアを作って孤立をしてはいけない。」

周りの人たちだけでなく、障害のある方自身の努力も訴える。

最近では、総合的な学習の時間などの講師として小学校に呼ばれることも増えてきたそうだ。子供たちにどんな思いで接しているかお聞きす



ると、

「障害者といつて変な目で見ないでほしい。仲間にして遊んでほしい。だから、これからもどしどし学校へ出かけて行って、今まで経験したことを話したい。」

と言われ、子供たちの心のバリアフリーを広げる活動に積極的な姿勢が伝わってきた。

この四月からは、三年越しで訴えてきた知的障害のある方の働く場所の確保が実現した。加賀さんも十三人の知的障害のある若者たちとともにその仕事に精を出されている。

「働く場所ができたということで、若い子たちが生き生きしている。そして、慕ってくれる。それが今いちばんうれしいことです。」

一緒に仕事をする若者たちの話になると、目を細めてうれしそうな表情を浮かべられる。

「障害者になっていろいろ勉強して、いろんな付き合いもできた。今は会長の仕事が生きがいであり、誇りです。まだやりたいことがたくさんあります。」

加賀さんの「ノーマライゼーション社会」構築への熱い思いを感じた。

氏名 かが ときお
生年月日 昭和十七年二月二十三日
住所 中之郷町下葦子四八二〇三

意欲を引き出す仕掛けを

学習情報指導員 杉浦 修

「さあ、この班の結果は、どうだったでしょう。」

A 小学校の総合的な学習の時間、お気に入りの場所を紹介し、その内容や発表の仕方を評価する時のことである。子供たちは、パソコンに表示された項目にマウスで印を付け、大型テレビを見つめた。B 先生がボタンをクリックする。瞬時に評価結果が円グラフとなって表示された。

「おっ」と驚きの声。

「今までの中の最高だね。すごい。」と、先生は他の班の意欲をそれとなく刺激していく。とかく最後まで集中力を持続させにくい授業に、パソコンのアンケートシステムを有効に組み込み、効果を上げていた。

また、C 小学校やD 小学校の二年生の算数の時間、三十五分以上も計算に集中する子供の姿があった。パ



ふれあい大すき 町大すき

六ツ美西部小 竹内 和美

二年生の町探検では、町のものやことだけでなく、人とのふれあいを通して、自分の町を笑顔で「大すき」と言える気持ちを育てたいと願った。なかでも恥ずかしがり屋のA子には、登下校時にあいさつを交わしているハートフルフレンズのおばさんと、ふれあい活動ができるように声をかけた。

ハートフルフレンズは、障害のある方を支援するために手作りの商品を販売している店屋さんだ。

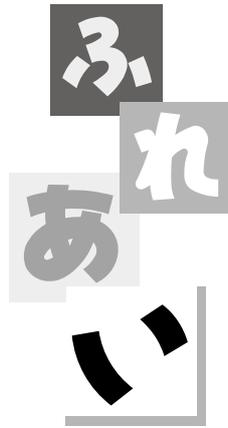
探検のはじめはビーズの飾りを淡々と作っている姿しか見られなかったA子だが、親切に言葉をかけ、作り方を教えてくれるおばさんの温かさに少しずつ心を開いていった。A子はおばさんにしてあげられることの



一つとして、寄贈品バザーで販売する画びょう作りを進んで手伝った。

バザー当日、売り場に並んだ自分の作った画びょうが売れている様子を見て、A子はとてもうれしそうに微笑んでいた。

町の人と繰り返しふれあうことで、「町大すき」という思いがA子の心に広がっているように感じた。身近な町の人との温かいふれあいがA子の心を動かし、自ら問題を見つけて解決していく力を育てたといえる。



空回りからの出発

知立市立八ツ田小 石原 真吾

「おはようございます。」

朝の教室で子供たちを迎える。

「おはようございます。」

子供たちの明るい声が返ってくるまで数か月。

朝の運動場で子供たちが片付け忘れたタイヤを片付ける。数か月後、

「先生大変だね。」

「そうなんだ。使った人が片付け



てくれるといいんだけどなあ。」

「私も手伝う。」

そのときの会話がうれしかった。

朝のかけ足タイム。開始五分前には運動場で走った。早く出てきた子供たちを励ましながら走る。開始時間ぎりぎりに出ていた子供たちが五分前には整列するようになった。担当の先生から、

「五年生の集合が早いですね。」

と言われて、朝からご機嫌になるわがクラスの子供たち。

知立市に来て一年目の昨年。生活の小さな一歩を大切にしたいと思っただが、思いが強過ぎて、空回りの出発であった。

二年目。入学式の準備の際、

「気が利きますね。」

と、転任の先生方に言われる彼らが出た。今年の子供たちの「心」とじっくり、どっしり向かい合いたい。

ソコンのフリーソフトを使つての授業である。子供がこれだけ集中できたのは、パソコンソフトの持つ魅力だけではない。進度表を作つて朱書きや特製シールを張つたり、遅れ気味な子供を前の方の席にしたりしてケアしていたことも大きい。意欲をもって活動できる仕掛けを作つていたからである。

E小学校のF先生の授業で使つた情報機器は、学区のコンビニとそこにあつたごみを分類した拡大写真だけである。説明文の書き方を学習する授業で、ごみについての二つの説明文を自作した。うまく説明した文と不十分な文を比較させながら、説明文に必要な事柄を確認させていった。ねらいに合った自作教材であることや、休日返上でごみを分類したF先生の迫力を感じ取り、子供は熱心に取り組んでいた。

最後に先生は、情報収集の方法を質問した。インターネットで調べる、市役所で聞くなど多くの方法が出された。F先生は、子供の考えたすべての方法を使つて自作の説明文を作成したことを伝えた。

情報機器が前面に出なくとも、子供の活動を予測し、意欲を引き出す教師の仕掛けが光っていた。



木村資生博士に続け！

理科自由研究と木村資生科学賞

▲ 木村資生科学賞を木村克美氏（資生氏の実弟）より授与される受賞者

間もなく、学校では理科自由研究に向けての事前指導が始まる。二学期に行われる理科作品展では、特に優秀と認められた研究に取り組んだ児童・生徒に対し、「木村資生科学賞」が授与されている。審査の観点としては、

- ・ 理科研究として、データの正確性や追究力が見られ、的確なまとめ方であるもの。
- ・ テーマが、身近でタイムリーなものや発展性のあるもの。
- ・ 研究の資料が充実しているもの。
- ・ 研究のねらいが分かりやすく、見ていて楽しいもの。
- ・ 児童・生徒の自主性・独創性が見られるもの。等が挙げられている。

平成十一年度から始まった「木村資生科学賞」は、文化勲章受賞者であり、岡崎市の名誉市民でもある故木村資生博士にちなんで創設された。一九二四年（大正十三年）、岡崎市十王町に生まれた博士は、根石小学校、旧制岡崎中学校、旧制第八高等学校を経て、京都帝国大学に進学をし、数学を使って遺伝学を研究された。その後、国立遺伝学研究所に着任された博士は、集団遺伝学の研究を始め、「分子進化の中立説」を提唱された。現在では、分子進化の創始者としてたたえられている。

小学校のころ学校嫌いであった博士が、理科を好きになったことを契機にして、熱心に研究を進めるようになったそうである。このことは、今の児童・生徒たちにも共感してほしい一面である。もうすぐ始まる夏休みに、一人でも多くの児童・生徒が意欲的に自由研究に取り組み、木村博士の後に続いてほしいものである。



▲ 受賞者が受け取るメダルと盾



▲ 夏休み自由研究の審査の様子



▲ 木村資生博士愛用の机



▲ 少年時代に愛用した顕微鏡

木村博士の略歴・栄誉歴

一九二四 十一月十三日岡崎市十王町に生誕
 一九三七 岡崎市立根石小学校を卒業
 一九四二 愛知県立岡崎中学校を卒業
 一九四七 第八高等学校を卒業
 一九四七 京都帝国大学理学部植物学科を卒業
 一九五九 日本遺伝学会賞
 一九六五 オックスフォード大学・ウエルドン賞
 一九七〇 日本人類遺伝学会賞
 一九七三 日本学士院賞
 一九七六 米国科学アカデミー外国人会員
 文化勲章・文化功労者
 フランス科学アカデミー外国人会員
 一九七六 岡崎市名誉市民
 一九七七 米国芸術・科学アカデミー外国人会員
 一九七八 日本学士会員
 一九八二 フランス政府国家功績勲章騎士号
 一九八六 米国科学アカデミー・カーティ賞
 一九八七 朝日賞
 一九八八 第四回国際生物学賞
 一九九二 英国王立協会ダーウィン・メダル
 一九九二 叙位 従三位
 一九九四 叙勲 勲一等瑞宝章
 十一月十三日逝去



▲ 平成4年11月26日、英国王立協会（ロンドン）より授与されたダーウィンメダル。木村資生博士が欧米以外では初めての受賞者となる。



▲ 3年に一度の米国科学アカデミー最高賞「科学の進歩に対するカーティ賞」を受ける木村資生博士（中央）



▲ せきれいホールの中庭に建立された博士の銅像

木村資生科学賞受賞一覧

	自由研究名	校名・学年
平成十一年度	アメンボを知る	本宿小3年
	木の枝のしん調べ	根石小4年
	不思議発見！カブトムシ	福岡小4年
	タバコと排気ガスの害	竜美丘小5年
	赤い雨の実態	山中小5年
	シダ植物	美川中1年
	空気砲の研究	六ッ美中1年
	植物の他感作用について	東海中2年
	キノコの採集と胞子紋	六北中3年
	まわりの色とさなぎの色	連尺小3年
平成十二年度	テントウムシを知りつくせ	本宿小4年
	カエルの不思議	福岡小5年
	食品合成添加物の害	竜美丘小6年
	食品においてカビ防止	根石小6年
	ダンゴムシの性質調べ	美川中1年
	大平川の鳥	美川中2年
	コケ植物	美川中2年
	他感作用による除草効果	東海中3年
	“めざせ”たんぼぼはかせ	本宿小3年
	発見！イモリの正体	上地小3年
平成十三年度	すごいぞ！有機肥料パワー	六南小4年
	夜光に集まる虫たち	奥殿小4年
	テントウムシを知りつくせ2	本宿小5年
	生活排水の植物への影響	岡崎小6年
	シダ植物の生態を知る	南中1年
	振り子のしくみ	東海中2年
	下水の水質汚染について	葵中3年
	地衣類	美川中3年
	ツマグロヒョウモンの秘密をさぐれ	根石小3年
	川の研究	三島小3年
平成十四年度	追せき！山綱川と生き物	藤川小4年
	めざせたんぼぼ博士2	本宿小4年
	冬に姿を消す山綱川の外来魚	山中小5年
	家の周辺のアリ	奥殿小5年
	つる植物のつるの巻き方による成長の違い	六南小5年
	渥美半島の化石（整理と保存）	愛宕小6年
	テントウムシを知りつくせ3	本宿小6年
	長瀬八幡宮の生き物	矢北小6年
	植物染色	南中2年
	ヒートアイランドを実験する	東海中3年
平成十五年度	幼虫の成長とふんの数	根石小3年
	チョウのひみつをさがせ	生平小3年
	ツマグロヒョウモンのひみつをさぐれ2	根石小4年
	すず虫の一生パート2	矢東小4年
	クヌギに集まる昆虫たち	奥殿小4年
	追せき！山綱川と生き物パート3	藤川小5年
	自然がいっぱい連尺学区	連尺小5年
	めざせ！タンポポ博士3	本宿小5年
	見直そう！ミミズのはたらき	竜美丘小6年
	黒いミカワオサムシを追って	奥殿小6年
	植物の成長と水・土の関係	六南小6年
	外来魚の流水への適応力	山中小6年
	迫りくる酸性雨の恐怖	附属中1年
	THE ミミズパワー	竜海中2年
	ASID RAIN	東海中3年
オリジナル万華鏡	美川中3年	



● 教育最新情報

○部活動の現状と取組

部活動は教育課程外に行われるものである。しかし、本市では多くの児童・生徒が意欲的に参加している。では、部活動の意義や良さは一体何だろうか。それは、児童・生徒が学校生活にやりがいを感じ、一人一人の持ち味や個性を磨く場として、その教育的意義をだれもが認めている。また、その結果として各種体育的競技会や文化的コンクールでは、毎年のようにすばらしい成果を収めている。

○複数校合同チームによる大会への参加（中体連のみ）
 一校による単独チームでの大会参加が困難な学校に配慮し、次の条件で複数校による合同チームを編成できる。
 〈種目と人数の範囲〉
 次の種目で、かつ部員数が記載の人数を下回るチーム。
 ・バスケットボール 5人
 ・ハンドボール 7人
 ・バレーボール 6人
 ・サッカー 11人
 ・軟式野球 9人
 ・ソフトボール 9人



進められている。その現状を、主に中小体連加盟の運動部活動について紹介する。

より参加が可能となる。
 〈個人戦参加について〉

- ・ 学校長の許可を得ること。
- ※水泳・柔道・体操など
- 〈団体戦参加について〉
- ・ 学校長の許可を得ること。
- ・ 同一学校内において、団体戦参加が可能な人員が満たされた場合に限る。

※柔道・剣道などの団体戦
 市内には『ジュニアシンフォニックバンド』等の数校合同の吹奏楽団が活躍している。合同部活チームと言うが、今や学校の垣根を超えた部活動の有様が問われている。何であれ、子供たちにとってやりがいのある部活となるように支援すべきであろう。



▲平成16年度総合体育大会入場行進

● 少年自然の家だより

○第十五回スプチグリーンハイク

五月一日（土）に、愛知植物研究会事務局長の安達史幸先生を講師にお迎えし、十家族三十人が須渕の豊かな自然の野山を歩き、樹木や植物に親しんだ。昼食には、講師さんに持参いただいた「こしあぶら」や「たら」、また、所内で取れた「ゆきのした」や「おおばこ」という普段はめったに口にすることのない山菜をてんぷらにして味わった。最後に、創作棟で各自が採集した草花を使ってしおりを作り、この日の記念とした。



▲落ち葉スキー

○「スプチネーチャークラブ」本年度もスタート
 学校週五日制に対応した本所主催行事で、子供たちに大好評のネーチャークラブも本年度で三年目を迎える。初年度はわずか二十人の参加であったが、昨年度は六十七人と希望者が急増した。本年度も七十人を超す応募があったが、安全面などを考え抽選で三十五人に絞った。

四季折々の自然を通して、所内の自然をよく知ってもらい、自然に親しんでもらうことを目的としている。様々な野外活動を楽しみながら、会員相互の親睦（しんぼく）を図ることを念頭におき、年八回の活動を計画している。

五月八日（土）に、第一回目を開催したところ、市内十四校の小学四年生から六年生までの三十五人全員が参加した。紹介ゲームに始まり、落ち葉スキーや木製の名札作りを楽しんだ。一日を共に過ごし、すっかり仲良くなった仲間と次回の再会を約束して解散した。

●表彰

◆第二十一回全日本少年軟式

野球東海大会

優勝

南中学校



▲ 東海大会優勝・全国大会出場（南中）

◆全国野鳥保護の集い

環境大臣賞 生平小学校

◆松下教育財団主催

第三十回実践教育助成

恵田小学校 竜南中学校

◆第二十九回愛知県中学生バ

ドミントン大会

第三位 西村美穂 城北中学校

◆第七回中日中学生アーチェリー大会

男子30・30M部門 優勝 日高勝博

女子30・30M部門 優勝 高木早紀

女子18・18M部門 優勝 山田萌恵

（三名とも 東海中学校）

◆第48回岡崎市中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	甲山	東海	矢作
	女	六ッ美	竜南	東海
バスケットボール	男	竜海	矢作北	六ッ美北
	女	竜海	六ッ美	東海
バレーボール	男	北	矢作	竜南
	女	矢作北	六ッ美	北
ソフトテニス	男	竜海	城北	東海
	女	城北	矢作北	福岡
卓球	男	美川	南	六ッ美北
	女	美川	六ッ美北	竜南
体操	男	南	矢作北	東海
	女	東海	竜海	矢作北
剣道	男	甲山	葵	南
	女	南	竜海	北
ハンドボール	男	美川	竜南	葵
	女	竜南	六ッ美北	
軟式野球	男	南	葵	矢作
	女	葵	南	甲山
柔道	男	甲山	矢作北	竜海
	女	甲山	矢作北	矢作
サッカー	男	福岡	竜南	竜海

●陸上競技（個人・1位のみ）

性	種目	氏名	校名	記録
男	1年100m	榊原康政	北	12"7
	100m	高瀬敬介	東海	11"9
	200m	岩野慎也	甲山	24"8
	400m	小嶋優作	竜海	56"1
	800m	志田祥明	東海	2'10"1
	1年1500m	水野眞治	東海	4'53"0
	2年1500m	市川宗一朗	竜南	4'26"6
	3000m	藤井延幸	東海	9'24"3
	110mH	池田悠祐	甲山	16"8
	400mR	西・岩野・成瀬・都築	甲山	47"2
女子	低400mR	澤村・榊原・藤村・原田	竜南	50"0
	走り幅跳び	西航司	甲山	6m58
	走り高跳び	清水貴弘	城北	1m70
	砲丸投げ	清水貴尋	六ッ美	11m67
	棒高跳び	中間博章	矢作	2m80
	1年100m	神尾有沙	北	14"3
	100m	新美綾乃	東海	13"2
	200m	浅井琴音	甲山	28"3
	800m	竹本百合恵	六ッ美	2'30"7
	1500m	武田知江美	六ッ美	4'57"4
女子	100mH	内藤さおり	岩津	16"9
	400mR	浅井・津田・山崎・田畑	甲山	53"7
	低400mR	河上・加藤・本多・石原	矢作北	57"6
	走り幅跳び	米倉由惟	竜南	4m81
	走り高跳び	永井ちなみ	葵	1m45
	砲丸投げ	高橋裕美	六ッ美	11m53



▲ 第48回岡崎市中学校総合体育大会開会式 宣誓（代表 矢作北中学校生徒）

●体操競技（個人・1位のみ）

性	種目	氏名	校名
女子	個人総合	藤田欣子	南
	床運動	藤田欣子	南
	平均台	藤田欣子	南
	跳び箱	藤田欣子	南

●柔道（個人・1位のみ）

性	階級	氏名	校名
男子	軽量級	竹内亮太	矢作北
	軽中量級	森田市郎	竜海
	中量級	天野智博	矢作北
	重量級	加藤寿基	甲山
女子	軽量級	松下千恵	甲山
	軽中量級	野倉舞	甲山
	中量級	神谷ちえみ	甲山

幼稚園開園

(明治33年)

写真提供：梅園幼稚園

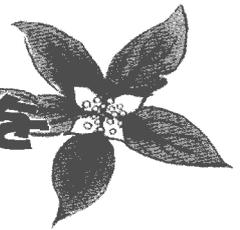
岡崎市における幼稚園創設は、明治三十三年、興蓮寺（現在の亀井町）に開園された私立岡崎幼稚園に始まる。その後、大正十三年に岡崎町立梅園幼稚園となる。また、その年に広幡幼稚園が、昭和三十七年には矢作幼稚園が開園した。梅園幼稚園開園当時の教師の記録の中に、「教師は常に幼児と共に生活をなし、その自由を尊重し、自発的に行動するよう誘導し、幼児の欲求に対して充分満足を与えようと努めている」と記されている。この精神は、百年を経ても、幼児教育の神髄として現在の幼稚園教育の中に脈々と伝えられている。



フォトヒストリー

岡崎の教育

この本を



- | | |
|--------------|-------|
| * 輝く日の宮 | 丸谷 才一 |
| 講談社 | ¥1890 |
| * 博士の愛した数式 | 小川 洋子 |
| 新潮社 | ¥1575 |
| * 13才のハローワーク | 村上 龍 |
| 幻冬社 | ¥2730 |
| * 死の壁 | 養老 孟司 |
| 新潮社 | ¥714 |
| * 「武士道」 | 新渡戸稲造 |
| 知的生き方文庫 | ¥495 |

最近、「武士道」について外国の映画や書籍が取り上げ、話題に上ることが多い。日本の常として、日本の良さを外国から教えられることも多い。新渡戸稲造は、この本をやむにやまれぬ理由で1898年に、しかも英文で書いた。著者が書いた時代でも薄れていた「武士道」ではあるが、敗戦後60年近くを経過した現在もまだ残っている。「武士道」は、武士のものだけではなく、当時の日本人の基底に流れている精神や倫理観であった。封建時代の残滓として葬ってしまうには、余りにも大きなものを持っており、一読する価値は大きい。

オリンピック間近である。連日、マスクミが様々な種目を紹介し、メダル獲得の期待を高めさせる。しかし、過剰とも思える期待は、逆に選手たちには大きな圧力となる。国民からのプレッシャーは、まさにもう一つの敵である。心穏やかに、冷静に見守りたい。

シオ スア

小説「銀河鉄道の夜」の冒頭に「もしも天の川が本当に川だと考えるならば、その一つ一つの小さな星は、みんなその川の底の砂や砂利の粒にもあたるわけです」の一節がある。もうすぐ七夕がやってくる。天の川を見上げ、銀河鉄道の夜の世界にしばし浸る。

汗びっしょりになって部活動に取り組む子供たち。力強い掛け声が、学校中に響きわたる。思うように結果が出なくて悔し涙を流したこと。仲間と励まし合いながら、厳しい練習を重ねてきたこと。様々な思いを胸に、最後の夏に挑む。暑い、暑い夏がまたやってくる。

数学を駆使して「分子進化の中立的説」を、木村資生博士は提唱された。博士は、生物学者が受けられる賞をすべて受賞した。ノーベル賞を受賞できなかったのは、数理生物学がないからである。業績を調べれば調べるほど、博士の偉大さに驚かされた。